



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成 25 年(2013 年) 1 月 9 日 第 56 号

## 『こころのありが』

「3歳半から中学生の子どものお悩みの場合、本人および保護者を対象に来所（予約制）による相談、カウンセリング・プレイセラピーなどを行っています。」

これは、教育相談について説明する際に第一に伝える内容である。年間延べ約10,000件、800ケースにおよぶ相談業務を20数名の教育相談員（臨床心理士、言語聴覚士等）が担っている。行動や不登校、集団不適応などの心理面、自閉傾向やことばの遅れなどの発達面に関わる課題等相談内容は多岐にわたるとともに、養育不安や虐待、DVなど、親もしくは子どもを保護すべき立場にある大人の課題が年々増加傾向にある。

また、相談員は平日相談やサタデー相談、教育相談総合窓口（電話相談）などの通常業務に加え、小学校への教育相談員派遣、教育相談に関わる教職員研修講師など、幅広く学校園支援に努めている。相談員が向き合っているのは、厳しい状況にあるクライアント（相談者）の姿であり子どもの現実である。的確な見立てのもと、時に寄り添い、励まし、共感しながら子どもの自己肯定感を育み、こころのケアに努め、こころの成長の手助けをしようと苦悶の日々が続く。

「雨あがりのギンヤンマたち」などの著作や障害者文化情報研究所所長など幅広く活動されている牧ローニさんは、以前学校での講演会で「こころのありが」について次のように語っておられた。

『こころは自分一人の持ち物ではない、自分の身体中を探しても見つからない、こころは人と人、人と動物、人と植物などの間にふんわりと生まれるもの・・・』

教育相談員による心理臨床の営みは、子どもに寄り添い、一途に支えながら、子どもの夢と現実をつなぐこと、子どもの親や家族、学校園の教職員、ともだち、その他関わりのある人々とつなぐこと、そして子どものこころに灯りをともすことをめざしている。そのために担当者同士で、そしてチーム内で常に論議しながらよりよい方向性を模索する。決して担当者一人の判断だけで前へ進めることはない。また、クライアントに教えるのではなく、今の悩みや今後の目標などについて、ともに考えていこうとする姿勢がぶれることはない。

人と人との間をつなぎ、人と人との間にふんわりと生まれる「こころ」のありがを探しながら、今日も子どもに、親に、微笑みを絶やさず、向き合っていく。平成 25 年（2013 年）、多くの子どものこころに灯りがともりますように・・・。



## 『確かな学び推進事業』を実施しました！

～東山開晴館、OGT小中一貫教育プロジェクト（京都御池中・御所南小・高倉小）～

11月に『確かな学び推進事業』として、京都市立小中学校の研究発表会において先生方の学びを支援しました。

京都市は、言語活動の充実と小中一貫教育に力を入れておられます。研究発表会では公開授業と全体会、分科会等が行われ、児童・生徒主体の言語活動を重視し、学習のめあてや流れを明確にした授業展開が多く見られました。参加された方からはいろいろなヒントが得られたとの声が聞かれました。以下、感想の一部を紹介します。



### ◆公開授業について

社会の授業を参観したが、児童が学校の歴史・開校当時の様子などがきちんと理解できている。また、地域の人（町衆）がすごいなという意見もあり、地域の人たちに感謝の気持ちが表れているところがとても素晴らしいと思った。豊中市でも各学校の歴史・開校の経緯などを深く学び、自分の通っている学校のすごいところ・自慢できる場所を話し合うような授業も必要なのではないかと感じた。

授業の1時間を「1人学び」「グループ学び」「全体学び」「学習の振り返り」の流れの中で行っていた。さらに先生の設問に応じて班を作り、司会係・発表係・記録係・何で？係の担当を決めて、他班の回答に対して何で？カードを貼って質問し、内容に対して再度回答するなど、生徒の考えや意見を引き出す工夫がされていると感じた。

小学校の学年・クラスに関係なく統一された授業システムに感心させられた。具体的には、子どもの司会で進める、一人学び（二人学び）からグループ学習へという流れである。その習慣づけがしっかりとされており、子どもの発表の機会が多く、表現力やコミュニケーション能力の育成に効果的な進め方であると感じた。

### ◆自校や市の実践に生かしたいこと

説明したり他の人の意見を聞いたり、自分の考えをまとめて発表することは教科に関係なく、いろいろな場面で求められる力である。単発の取り組みでこれをすればできるようになるというのはなく、時間をかけて継続的に取り組まないと身につかない力なので、自校の生徒では難しいとあきらめるのではなく、少しずつでも常に練習させていかなければいけないということをあらためて感じた。

見せていただいた小学校、中学校では『周りの人が聞いてくれる』という安心感から、意見を発表する子どもが多いと思った。子どもが発表するための環境づくりをしっかりと考えていかなければいけないと思う。

学校図書館をメディアセンターと位置づけ、調べ学習を展開しておられた。それらが卒業論文としてまとめられていたが、地道な実践がいいのだと示してくれていた。紙に正解を書けば点数化され評価されるという学習ではない、高い学力―生きる力―を育てておられることを目の当たりにできた。豊中の子どもたちも負けていないよ、と根拠もない自信がわいてきた。



今日的な教育課題について、工夫しておられる地域の取り組み実践に直にふれるのは、所属校や豊中市内での研究推進のきっかけになるのではないのでしょうか。

『確かな学びを豊かな学びへ！』  
教育センターをぜひご活用ください！



『授業づくりチェックシート』をアップしました。ご活用ください！

市実施研修時に研究・研修グループからご紹介していますが、授業を行う際にはポイントとなる観点・項目を意識して授業を組み立てたり、参観しアドバイスし合う方法も効果があります。

今回、授業づくりのヒントとしていただけるように、一例としての『授業づくりチェックシート』をホームページに掲載しました。ぜひご覧いただき、日常のご自身の授業や校内研究会の際にご活用ください。

豊中市教育センター内向けホームページの「各種様式ダウンロード」→「研究・研修グループ」に『授業づくりチェックシート』で掲載しています。ぜひご活用ください！

★授業づくりチェックシート

担当者名		実施日	平成 年( ) 月( ) 日
実施クラス	年 組	講師・研修名	担当者名

観点	項目	メモ
授業づくり	1 互いに思いあいの授業づくりがなされていますか。	
	2 単元全体の授業計画と単元の授業計画は一致していますか。	
目標の設定	3 学習目標を設定し、授業に反映していますか。	
	4 学習目標を設定し、授業に反映していますか。	
内容・教材の工夫	5 知識・技能のほかに、思考力・判断力・問題解決力も育成されていますか。	
授業の展開	6 1時間の授業計画に沿って進められていますか。	
	7 知識・技能のほかに、思考力・判断力・問題解決力も育成されていますか。	
授業の振り返り	8 授業中の学び、生徒の学習状況を、授業中・授業後に確認していますか。	
	9 知識・技能のほかに、思考力・判断力・問題解決力も育成されていますか。	

◆全体を振り返ること、気づきなど

◆レーダーチャートで振り返ると...

※1-9の各項目に1-5の数字を記入し、レーダーチャートで振り返ります。

## 第58回小・中学生理科展 表彰式・作品発表会を開催しました。

12月8日(土曜日)に、第58回小・中学生理科展における各賞受賞作品の表彰式・作品発表会を行いました。表彰式では、大阪府学生科学賞、大阪大学総合学術博物館長賞・待兼山賞、豊中市教育センターあすなろ賞の表彰を行い、その後、博物館長賞の受賞者2人が作品について発表をしました。野畑小学校の小川隆翔さんの作品「Roots of my face」は、自分の顔と家族・親族の顔のつくりの特徴についてパーツごとに分類して調べ、分析した作品でした。また、第十一中学校の中澤利恵さんの作品「花が決まった時間帯に開花する条件と理由」は、花が開花する条件について、様々な角度から実験・観察を行い、ていねいにまとめた作品でした。二人とも自分の作品について、ICTを活用してとてもわかりやすく発表してくれました。

続いて、大阪大学総合学術博物館教授の上田先生に「科学研究の事始め」と題する講演をいただきました。そこで話された、研究において大切なこと4点を紹介します。

- ①独創性 (自分だけのアイデアを考えること)
- ②新規性 (何か新しい発見を見つけること)
- ③考えを述べる (自分の言葉で自分の考えを伝えること)
- ④研究・実験を楽しむ (科学研究はしんどい、けれど楽しい  
「しんどいこと」「めんどくさいこと」に打ち勝つ気持ちが必要)



上田先生の話聞き、次の研究に向けてがんばろうと意気込む受賞者の様子が伺えました。

今年度は、豊中市の小学4年生～中学3年生の児童・生徒が9500点もの理科自由研究作品を制作しました。これからも、さまざまな事象に「なぜ! どうして!」と好奇心を持ち続け、楽しんで理科の自由研究に取り組む子どもたちが増えていくことを期待しています。

気になる子どもへの支援のヒントより

コミュニケーションがとりにくい子



3学期になり、子ども一人ひとりの性格やクラスでの役割もよりはっきりと見えてきたのではないのでしょうか。Bさんは思ったことをすぐに言ってしまい、クラスの子どもたちが困惑することがあります。担任の先生はBさんと他の子どもたちとの関係が心配です。Bさんへの関わり方を考えてみたいと思います。

まず、Bさんの様子をよく見てみましょう



\*会話の様子を細かく見てみましょう。

例) 視線はどこに向いていますか?どんな言葉づかいをしていますか?

\*周囲の様子に目を向け、状況を理解できていますか?

例) 何をやる時間なのか?まわりは何をしているのか?

\*相手の気持ちは理解できていますか?

など・・・

Bさんは授業内容は理解しており、友人関係では誰にでも自分から話しかけます。ところが、相手から話しかけられても答えなかったり、相手を見向きもせず話したり、会話が一方的になることがあります。また、授業中など静かに話を聞く場面で友達に話しかけてしまうなど、周囲の様子に注意が向けられていません。Bさんは、思ったことをそのまま言うことがあり、時には乱暴な言葉を使います。しかし、それによって相手が傷ついていることには気づいていないようです。

支援の手だてとして以下のことが考えられます。

①会話が一方的にならないように声を掛ける。

例)「今、〇〇さんが話しているよ、聞こうね。」「お話しするの待ってね。」

②今、どういう状況かを伝える。

例)・「今は先生がお話しています。静かにしましょう。」

・静かにする時には赤信号を示すなどイラストによる視覚支援の工夫

③言っではいけない言葉(相手を傷つける言葉)などを確認する。

④できたことを具体的にほめる。

など・・・

コミュニケーションのどの部分でつまづいているのかを把握し、それに応じて必要なサポートをしていくことが大切です。

参考:『気になる子どもへの支援のヒント-相談事例集-』 p14, 15

大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編 豊中市教育センター平成21年(2009年)3月発行